

取組名称	～源流から都市までをつなぐ、自然と人の共生モデル～ 流域循環共生圏「Kosuge-Model」の推進			団体設立後の経過年数	2年
応募取組主体名称	小菅村/NPO法人多摩源流こすげ/ 大成建設株式会社	活動地域	山梨県小菅村	応募取組の活動年数	3年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する 実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとりづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				

流域循環モデル「つかう・つくる・まもる」の取り組み



取組の要旨

自然災害や生物多様性損失といった地球規模の課題に対し、私たちは源流域の森林を「グリーンインフラ」として再生することを目指しています。小菅村・NPO法人多摩源流こすげ・大成建設株式会社は2023年からの活動をきっかけに、2024年に協定を締結し、建設事業における木材利用を軸に人工林を自然林へ誘導することで、グリーンインフラとしての機能が森づくりと、源流域の経済活動の活性化を同時実現する流域循環共生圏「Kosuge-Model」の構築に取り組んでいます。

実績の要旨

大成建設の社員食堂では、小菅村産の間伐材を積極的に利用（つかう）、伐採跡地へ広葉樹を植樹（つくる）、防鹿柵設置とモニタリング（まもる）を行い、「つかう・つくる・まもる」の流域循環モデルを実装。次世代の環境人材育成を目指し、小菅村内で村人と一緒に社員や大学生に対するサステナビリティ研修を実施。また、社員や工事現場で「大成ジビエ食堂」を開催し、食を通じて鹿被害等の環境課題の認知向上を図っています。源流から都市まで流域全体で環境課題を考え、行動に移すきっかけを提供し、源流関係人口を増やすことで統合的解決に取り組んでいます。

取組評価の要旨	環境への貢献	間伐材の積極的な利用により、人工林の手入れを促進。防鹿柵設置により林床植生の回復を図り、林内の生物多様性向上に貢献。
	社会・経済への貢献	小菅村産間伐材やジビエ利用で源流域の経済活性化と、社員研修で林道の復旧作業（伝統的な石積再生等）を実施。人材育成と地域課題解決を通じた流域関係人口の増加による村内の活気・賑わいを創出。
	地域資源の活用	間伐材を設計的な工夫を加えることによって積極的に利用することや、ジビエ食堂の定期開催により、地域資源の価値を高め、資源の有効活用を推進。
	普及・汎用性	木材利用を通じた森林再生や、社員研修、ジビエ食堂は他地域や企業でも展開可能であり、多様な主体に対して幅広く展開できる流域循環共生圏「Kosuge-Model」を推進するプログラムを実施。
	革新・ユニーク性	小菅産材を物件に利用することに加え、物件の関係者を小菅村に招き、立木の伐倒や植樹を実際に体験する取組を実施。この取組による社内外の流域関係人口の増加を目指す。
	継続性	木材利用を軸として、本業を通じた持続的な取り組みを当初より考えてKosuge-Modelを構築。3者協定のもと、今後も取組を継続し、定期的なモニタリングや長期的な効果を検証する。

展望の要旨

Kosuge-Modelでは、100年後のインフラ整備を見据えながら「つかう・つくる・まもる」を実践し、源流経済の活性化とグリーンインフラの推進を同時に行う、自然共生社会の実現を目指します。